

## 市長から

昨年は新図書館、新市民病院がオープンし、錦海塩田跡地では、日本最大級となるメガソーラー発電所の建設が順調に進んでいます。改めて、ご理解ご協力くださいました皆さんに感謝申し上げます。

これからは将来の子どもたちに美しく豊かな本市を残していくべく、積極的にまちづくりに取り組んでいきます。そのためには、しっかりととした調査や根拠（エビデンス）に基づく事業の選択と集中を行い、限られた財源で効果的な施策の推進を図る必要があります。

特に、市の持続的な発展を目指すためには、若い世代が住みたいと思えるまちをつ

くっていくことが必要です。温暖で豊かな自然環境や豊富な食材、誇るべき古くからの歴史文化を伝え活かしながら、JR駅前などの整備、公共交通や医療の充実など暮らしの利便性をさらに高めることや、防災・防犯、有害鳥獣対策など安心して暮らせるための取り組み、子どもの教育や子育て環境の整備に力を入れていくことが重要です。

本市は、人口約3万8千人という小さな自治体であるからこそ生み出せる信頼関係とスピード感によって、市民の皆さんを主役とした、市の良さを活かしたまちづくりを進めることができると考えます。そのために市役所は、公正かつ柔軟で細やかな配慮のできる組織を目指していかなくてはなりません。私たちのまちに降り注ぐ太陽の光のよ

うに、人が輝く本市のまちづくりにお力添えくださいますようお願い申し上げます。

### 新年度の機構改革

総務部は、総務課、契約管財課、総合政策部から移管する財政課で組織し、地方交付税の削減などによる厳しい財政状況の中において、人事、行政組織、公共施設再編計画、行政改革を一体的に検討することで、財政の健全化を図ります。

総合政策部は、企画振興課、総務部から移管する秘書広報課で組織し、ふるさと納税、広聴広報、移住定住対策など、市の魅力の発信を一体的に進めていきます。

産業建設部は、産業振興課内の瀬戸内ブランド推進室を観光課として独立させ、イ

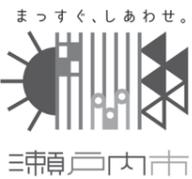


有害鳥獣捕獲の罠設置

ンパウンドなど新たな観光施策の取り組みを進めていきます。併せて、産業振興課内に有害鳥獣対策室を設置し、深刻化する有害鳥獣問題に迅速に対応していきます。

### 瀬戸内市ブランド構築事業

平成27年度から、地方創生交付金を活用して取り組んできた瀬戸内市太陽のまちシ



シビックプライド推進事業ロゴマーク

につながる行政運営となるよう、ふるさと納税寄附金も活用したメリハリのある予算編成を目指しました。

一般会計の予算額は、171億3,048万6千円で前年度と比較し、9億4,936万5千円の増加で、合併後最大の予算規模です。

これは、市道錦海師楽線や旧堤道線などの道路整備費、太陽光パネルの設置や牛窓中学校・長船中学校への省エネエアコンの設置と照明のLED化などの経費を計上したこと、単独事業として、JR駅前等整備事業の詳細測量設計費、火葬場整備事業の予定地造成設計費やブルーラインインターチェンジ詳細設計費のほか、福田保育園増設工事などの大型事業を計上したことが主な要因です。

### コンビニエンスストアでの行政サービス

平成29年度中に、マイナンバーカードを利用して、コンビニエンスストアで住民票の

写しなどを取得できる、コンビニ交付のサービスを開始する予定です。

導入には、主にシステム構築費と運営負担金がかかりますが、これらの費用の半額は、国からの特別交付税によって措置されます。導入当初は住民票の写し、印鑑証明、所得証明が交付できるよう準備を進めていきます。

また、コンビニエンスストアでの納税などについては、平成30年度固定資産税納税通知書第1期から全国のコンビニエンスストアで納税できるサービスを始める予定です。

### 消費者生活センターを開設

市に寄せられる消費生活相談の内容は、商取引によるトラブル、架空請求などの違法行為などが増加しています。これは、インターネットに代

表される情報化社会の進展に伴い手軽に金銭の授受が可能となったことによるものです。また、従来の高齢者を狙った振り込め詐欺も後を絶たな



現在の消費生活相談窓口

い状況です。相談件数の増加や複雑・巧妙化する相談内容に対応するため、現在の消費生活相談窓口の機能を拡充した瀬戸内市消費者生活センターを平成29年度中に開設することになっています。

開設に当たり、専用電話を設置し、より相談しやすい体制づくりに努め、被害の防止と解決に資する機関としての機能の充実を図りたいと考えています。

また、高齢の人には、転倒予防体操などの一般介護予防事業を紹介し、自立した健康な生活を送っていただきたいと考えています。

認知症対策としては、認知症の容態に応じた適時適切な医療・介護などの提供として、早期診断・早期対応を目的とした認知症初期集中支援チームをトータルサポートセンターに設置します。関係者と連携し認知症に対する適切な治療につなげ、認知症の人の自立生活を支援する体制整備に努めていきます。

### 介護予防・日常生活支援総合事業、認知症対策

介護保険の制度改正を受け

# 胃がん検診と

# 乳がん検診が変わります



## 胃がん検診



2年に1回で、50歳以上の人（\*）が対象となります。

バリウムによるレントゲン撮影（検診車での集団検診）と、内視鏡検査（医療機関での個別検診）のどちらかを選んで受診できます。

バリウムによるレントゲン撮影は4月から、内視鏡検査は6月から（予約は4月から）始まります。

\*本年度の胃がん検診の対象は次の人です。

- 50歳以上の偶数年齢になる人
- 50歳以上の奇数年齢になる人で、昨年、市の胃がん検診を受けていない人

## 乳がん検診



40歳以上の女性が対象となります。マンモグラフィ・視触診併用検診と、マンモグラフィ単独検診のどちらかを選んで受診できます。（視触診のみの検診はありません）

※胃がん検診・乳がん検診の対象となる年齢は、平成30年4月1日現在の年齢です。

市では、4月から各種がん検診を行います。職場などでがん検診を受ける機会がない人は本紙折り込みの「健康カレンダー」などで、日程などを確認して、がん検診を受けましょう。

# がん検診を受けましょう



がんは、とても身近な病気です。国民の2人に1人ががんになり、3人に1人ががんで亡くなっています。また、がんは自覚症状が出にくい病気です。自覚症状に気が付いて病院を受診したときには、がんが進行した状態で発見されることが多いのが現状です。

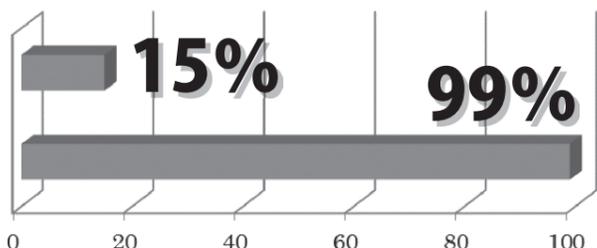
しかし、がん検診を受けることで、がんを早く発見することができます。さらに、早期に治療を行うことができるため、からだや経済面の負担が少なく、高い確率でがんを治すことができます。

## 検診による早期発見が大切！

◎発見時期による5年生存率（※）【大腸がんの場合】

出典：がんの統計'12 資料

早期発見できなかった場合（Ⅳ期）  
Ⅳ期：肝臓や肺などへの遠隔転移がある状態



早期発見できた場合（Ⅰ期）  
Ⅰ期：がんが大腸の壁にとどまっている状態

※ 5年生存率：がんと診断された人のうち、5年後に生存している人の割合



JR 邑久駅

## JR 駅前等整備計画(市内3駅)の進捗状況

JR 駅前等整備計画は、その実現に向けて課題を解決し効果的かつ広く市民から理解が得られるよう計画づくりを進めています。

JR 駅前等整備検討委員会を4回開催し議論を重ね、昨年11月から12月、整備計画案に対するパブリックコメントを実施し、17人49件の意見がありました。これらの意見を取りまとめ、平成28年度末には整備計画を策定することとしています。

計画では、合併特例債が活

用できる平成31年度までに整備する公衆トイレ、駅前ロータリー、歩車道分離、駐輪場などを盛り込んだ短期計画と、財源も含めて中長期的に課題解決を目指していく駅舎等改修などを含む中期計画に分けて整備する方針としています。

短期計画については、JR西日本との協議および地元調整を進め、平成29年度中に詳細設計を行い、できるだけ早く工事に着手し、平成31年度の完成を目指します。

## 教育長から

学校教育においては、学力向上、生徒指導、特別支援教育および保幼小接続などへの対応が必要です。特に、学力の向上を図るため学力向上推進事業をはじめとした関連施策を充実するとともに、道徳および小学校での外国語の教科化やアクティブ・ラーニングの視点での授業改善など、

学校教育においては、学力向上、生徒指導、特別支援教育および保幼小接続などへの対応が必要です。特に、学力の向上を図るため学力向上推進事業をはじめとした関連施策を充実するとともに、道徳および小学校での外国語の教科化やアクティブ・ラーニングの視点での授業改善など、

新たな課題に積極的に対応してまいります。

また、教育の機会確保のために実施している奨学金制度については、定住促進などの施策にもつながるよう、返還金の一部を免除とする新たな制度を導入したいと考えています。

社会教育においては、昨年開館した市民図書館をはじめとした社会教育施設を中心として、生涯学習の機会のさらなる充実を図る必要があります。このため、地域資源を活用した事業や体験型学習の機会の充実、社会教育施設や関連機関との連携事業、また市民の皆さんとの協働事業などを推進してまいります。

## 日本刀を日本遺産に申請

古代から続く伝統的な日本刀の作り技術を継承している本市と岐阜県関市との共同で、「日本刀が息づく街 関・瀬戸内」として日本遺産認定申請を行いました。

日本遺産は、地域の歴史的



古式鍛錬

魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーを日本遺産として文化庁が認定するものです。

備前長船と関の孫六は世界に聞こえた刀のブランドであり、本市と関市は日本刀の大産地です。日本刀の生産や流通を中心に栄えた町場や文化とともに、古式鍛錬をはじめ、日本刀を構成する伝統的諸技術を体感できるまちとして、今後ともその魅力の発信に努めます。

## 夢二コンクールの開催を検討

本市出身で大正ロマンを代

表する画家であり詩人・デザイナーでもある竹久夢二の偉業をたたえ、平成30年1月に夢二コンクールの開催を計画しています。これは、竹久夢二の作詞した曲を課題曲として、声楽部門と楽器部門の音楽コンクールとして実施するものです。

また、コンクール創設の周知および地域文化の向上を図るため、市内各地で竹久夢二ゆかりの音楽を題材としたコンサートや施設への訪問コンサートを実施します。併せて、牛窓地域や長船地域の文化芸術など、地域資源を活かした市内の他の観光施設と、竹久夢二ゆかりのエリアとの回遊性向上につながる検討を行うことを予定しています。

これらの全体計画については、夢二のふるさと芸術交流プロジェクトとした地域再生計画を国に申請しており、実施に当たっては地方創生応援税制いわゆる企業版ふるさと納税を活用することとしています。